

高設イチゴにおける株冷購入苗の経済性検討

1 目 的

2008～2009 年のイチゴ高設栽培において、株冷購入苗の導入により収穫の前進化と収量増加の効果が見られた。2009～2010 年のイチゴ高設栽培では引き続き収穫の前進化と収量増加の効果を検討するとともに、株冷購入苗の導入による経済性を検討する。

2 実証内容

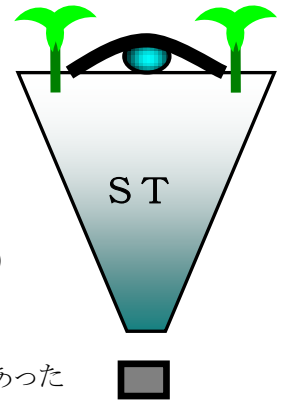
(1) 実証場所 間口 6m パイプハウス (2 1 0 m²)

(2) 調査内容

‘紅ほっぺ’ 株冷購入苗 (以下、紅ほっぺ株冷区) および、‘章姫’ 一般購入苗 (以下、章姫標準区) を供試し、時期別収量、品質 (糖度、形状等) を調査した。調査規模は 1 区 2 プランター 2 反復。

(3) 耕種概要

ア 栽培のシステム	いちごステーション (誠和)
イ 定植日	‘紅ほっぺ’ 2009 年 9 月 30 日、10 月 2 日 ‘章姫’ 2009 年 9 月 16 日
ウ 定植苗	7.5cm ポット購入苗
エ 栽植密度	10,000 株/10a
オ CO ₂ 施用	12 月 1 日～3 月 1 日 6:30～8:30 (15 分稼働 30 分休)
カ 施肥・給液法等	専用肥料 300g/プランター(10 株)
キ 収穫調査期間	2009 年 12 月 7 日～2010 年 5 月 6 日
ク その他特記事項	2009 年 10 月に高温により株や葉が褐変枯死する被害があった



3 結果の概要

- 1) 紅ほっぺ株冷苗の購入金額は 150 円/本、章姫一般苗の購入金額は 130 円/本であった。(紅ほっぺ一般苗は 135 円/本。)
- 2) 定植後の高温被害により、前年と比べ収量は全体的に低く、果実も小さい傾向であった (表 1)。
- 3) 紅ほっぺ株冷区は章姫標準区と比べわずかに収量は高かった (表 1) もの、株冷苗の効果によるものか判然としなかった。
- 4) 12 月の収穫量は紅ほっぺ株冷区で 12kg/10a (前年 495kg/10a) であり、章姫標準区の 460kg/10a と比べ前進化の効果が判然としなかった (図 1)。
- 5) 経営試算を表 2 に示した。株冷苗を導入する場合、一般苗を使用する場合と比べ種苗費が 15～20 万円/10a 増加する。販売単価を 1000 円/kg、販売額の 2 割を出荷経費とした場合、株冷苗導入により 188～250kg/10a 以上収量が増加すれば所得向上が期待できる。

以上、2008-2009 年の栽培においては株冷苗を用いた場合に収量が高く、所得は一般苗を用いた場合の約 2 倍と試算された。しかし、高温障害により収量が少なかった 2009-2010 年の栽培においては経営的に赤字となり、より種苗費が高い株冷苗で赤字の金額が大きかった。

表1 収量および品質

品種	1株当たり 上物 上物果数 (個/株)	1株当たり 上物 果数率 (%)	1株当たり		10a当たり 上物収量 (kg/10a)	大果(20g以上)		糖度 (Brix%)
			上物果重 (g/株)	上物1果重 (g/個)		数	率	
紅ほっぺ 株冷	9.9	48.7	183.5	18.5	1,835	4.3	21.2	11.7
章姫 標準	11.5	60.8	180.2	15.5	1,802	3.2	16.8	11.8

【参考】2008-2009年

紅ほっぺ 株冷	19.2	89.0	448.8	23.4	4,488	8.7	40.1	
紅ほっぺ 標準	14.4	86.8	330.7	23.0	3,307	9.3	56.2	

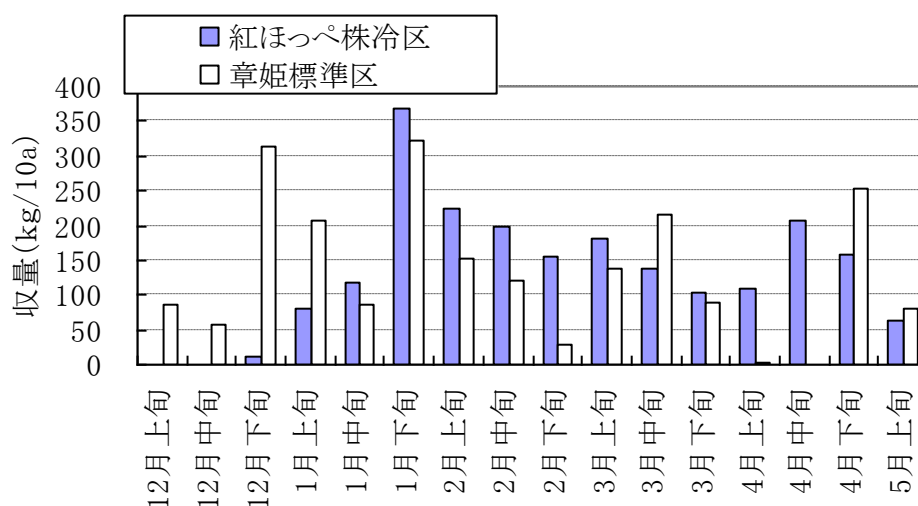


図1 時期別収量(2009年12月～2010年5月)

表2 10aあたり経営試算

(単位:千円)

年	区	販売金額 A(収量×1000円)	種苗費 B	出荷経費 C=A×0.2	他変動費 D※	固定費 E※	所得 A-B-C-D-E
2009-	紅ほっぺ株冷区	1,835	1,500	367			-444
2010	章姫標準区	1,802	1,300	360			-270
2008-	紅ほっぺ株冷区	4,488	1,500	898	229	183	1,679
2009	紅ほっぺ標準区	3,307	1,350	661			884

注 ※印は福井県園芸作物耕種基準(経営編)半促成イチゴの試算例金額を使用した